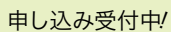


橋を渡る人の「街事情」マガジン

味をみる。――みる。味



味わえ！ ミュージアム

中之島のイメージを問うと、「文化的」と言う答えが返ってきたりする。なんとなく頷ける気もするが、ところでその「文化的」ってなんだ？、おそらくは博物館や美術館が多い。一括りにしてはいけないうが、ミュージアムもまたいろいろ。それに合わせた味わい方があるはずだ。それぞれに違う役割があり、それに合わせた味わい方があるはずだ。

取材文／大迫力 松本創 吉成隆雄（写真家）

現在、国立国際美術館で開催中の「ルノワール―伝統と革新」の様子。

出会う

国立国際美術館のツボ



鑑賞はご自由に

真っ白な空間に絵画が並び「絵画の庭」の展示風景。解釈を押しつけないようにと解説は極力廃したそうだが、それにしてもこの潔さ。中之島へ移ってからは目的なくふらりと訪れる人もいる。「常に新しい人が来ている、と意識してやっている」と島さん。



先生のためのガイド

アート好きの裾野を拡大しようと、主に小中学校の先生を対象に、「先生のための国立国際美術館活用ガイド」を発行している。子供たちがアートとふれあえるよう美術館をうまく利用してもらうためのもの。団体鑑賞の取り組み方やマナーなども書かれている。

古典と現代

すでに名の通った古典と挑戦的な現代美術、特別展ではこの両者が同時に開催されることが多い。以前、ルーヴル美術館展と並行して行われたやなぎみわ展には、こちらの方が新鮮で面白かったとの声も。こうして少しずつファンを増やしていくわけだ。



[ル・コントワール・ド・ブノワ]でルノワール時代のフレンチを。

西梅田ブリーゼブリーゼの[ル・コントワール・ド・ブノワ]では、ルノワール展に合わせた特別ディナーコースを用意。出品作「ムール貝採り」にちなんだムール貝とサフランのクリームスープや妻のアリーヌが作って客人をもてなしていた逸話をもとにした牛ホホ肉のポトフほか、前菜とデザートも付くボリュームたっぷりのコースで6,800円(※5月31日まで/税込・サ別)。106-6345-4388



アートに触れるきっかけとなるように。
ルーヴル美術館、エジプト、そして現在開催中のルノワール。誰もが知る作品を目の当たりにできる特別展のラインアップに、「さすがは国立」と目を細めてしまいが、目指すのは「そこ」ばかりではないようだ。
国立国際美術館は昭和45年に行われた大阪万博の会場内に建設された万国博美術館がそのルーツである。7年後に国立美術館となる際、東京や京都にある他の美術館との差別化を図るため、現代美術に特化することとなった。「万博の精神を受け継ぎ、日本と海外、東洋と西洋の美

術交流を図る狙いもあった」と学芸課長の島敦彦さんは言う。そうした流れの中、ルノワールやゴッホといった大御所の古典は「現代美術の出発点」として位置づけている。そのため、フロアを分けてトンガった現代アートの展覧会を並行して開催するなど、あくまで「作品や美術館を好きになってもうらう入口でありたい」という姿勢が貫かれている。現在もルノワールと共に、現代美術家・荒川修作の棺桶型の立体作品展を開催している。「来

てもらったらしめたもの。日本の現代アートになじみのない人にも見てもらえるチャンス」と提えている。
4月まで行われていた「絵画の庭」では、28人もの日本人現代美術作家を集め、一人ずつモチーフもテキストもボリュームも様々な部屋が並んだ。「28人もいれば必ず2〜3人は魅きつけられる作家がいるはず。そのきっかけ作りです」(島さん)。まずは考えずに多くを見て、それから好きになっていけばいいということだろう。

入口であること

国立国際美術館

● 味わいその1

国立国際美術館

地下3階、4つの展示室を擁する関西でも最大級の美術館。現在は「ルノワール-伝説と革新」と「死なないための葬送-荒川修作初期作品展」を開催。共に6月27日(日)まで。ルノワール展は観覧料1,500円(荒川修作展も観覧可)、荒川修作展のみの観覧は420円。106-6447-4680 10:00AM ~ 5:00PM (金曜日は~ 7:00PM、入場はそれぞれ閉館30分前まで) 月曜休 (5月3日は開館)

◎ルノワール展のペアチケットを5組10名の読者の方にプレゼント!

ハガキまたはファックスに住所・氏名・電話番号・島民へのメッセージをお書き添えの上、P23に記載の住所もしくはファックス番号にお送りください。応募は5月21日(金)まで。なお当選は発送をもって代えさせていただきます。



ピエール=オーギュスト・ルノワール
《イレーヌ・カーン・ダンヴェール嬢
(可愛いイレーヌ)》
1880年 E.G.ビュロー・コレクション



「うつとり」大歓迎 大阪市立東洋陶磁美術館

● 味わいその2



大阪市立東洋陶磁美術館

企画展も4000点の収蔵品を"編集"する形で考えられている。現在開催中の企画展は「高麗時代の水注」。酒や水を注ぐ器ばかりを時代限定でセレクト。7月25日(日)まで。入場料500円。隣に併設されている【ティールームサロン】では、ロイヤルコペンハーゲンのカップでドリンクがいただける。106-6223-0055 9:30 AM~5:00PM(入館は30分前まで) 月曜休(5月3日は開館、6日は休館)

浸る

東洋陶磁美術館のツボ

採光&展示方法

採光を工夫し、各部屋のコンセプトを分かりやすくしている。自然光を取り入れた展示ケース、360度観賞できる回転台などユニークな展示方法にも注目。「立体感が出るよう実はケースの奥に影を作っているんですよ」というこだわりを見せる。



帰りは老松通へ

「気軽に買えるアンティークを普段使いにするのが若い方に流行っているようです」と野村さん。館から歩いて5分ほど、数十軒の古美術店が立ち並ぶ老松通での買い物と一緒に楽しむ人も。企画展のテーマにあわせて飾る商品を変えるお店もあるのだとか。



ダンナの遺志を継ぐ
エキスパート美術館。
中央公会堂の前に建つ東洋陶磁美術館。中国・韓国陶磁を中心に所蔵品は約4000点。うち国宝2点、重要文化財13点を含む専門特化した美術館だ。実はその多くが、かつて今橋にあった商社・安宅産業のコレクション。同社の経営破綻により一時は海外散逸の危機を迎えたが、メインバンクだった住友銀行をはじめとするグループ21社が引き受け大阪市へと寄贈したのが開館のきっかけになった。昭和57年(1982)当時の評価額は152億円。貴重な美術品を大阪から出すまいと、ダンナ企業が一肌脱いだわけだ。

「奇贈をきっかけに美術館が建設されました。だから展示室はコレクションの良さを活かした独自の設計になっています」と主任学芸員の野村恵子さん。常設展は中国、韓国、日本と分けられた小さな展示室をたどるうちに、陶磁史の流れが分かる構成になっている。これも「それだけで東洋陶磁史を体系立てて紹介できるだけの量と質を誇っている」コレクションがあればこそ。華やかな中国陶磁は天井高のある明るい部屋で、青磁や白磁といった落ちつきのある韓国陶磁は照明を抑えて…と部屋ごとに変化を付けている。「色や形の美しさだけでなく器の使い方を想像しながら、ゆっくりと“本物の美”にふれてもらいたい」と野村さん。展示ケース前のカウンターは、メモをとったり肘をついてうつとりしたりしてもらうためのもの。これもまたエキスパートらしい心配りだ。

最先端の成果を リアルタイムで伝える。

宇宙とエネルギーのすべてをテーマとする大阪市立科学館のルーツは、四ツ橋にあった「電気科学館」にさかのぼる。「市が配電事業をやっていた昭和12年（1937）の開館。電気があるとこんなに便利ですよ、とPRするショールームのような存在だったそうです。実際に家電製品も展示されていたんですよ」と、学芸員の長谷川能三さん。

「科学館」という名称は、この館が日本で初めて使った。研究業績や史料など「過去」を保存展示するのが「博物館」だとすれば、最先端の研究を含めた科学現象をリアルに伝え、普及するのが「科学館」の役割。21年前に中之島に移って来てか

らも、その精神は受け継がれ、実験や体感つまり「ライブ」感を重視している。

その最たるものがプラネタリウム。その大きさ（ドーム直径26・50m）や臨場感・リアリティは「世界の五指に入る」と言われるが、それだけじゃない。名物は5人の天文系学芸員が上映回ごとに担当するナマ解説。大まかなテーマや流れはあるけれど、テープや台本に頼らず、お客さんの反応やその時どきのトピックに合わせて、45分間しゃべりっ放しのアドリブトークというのは、世界的にもほとんど例がない。「学芸員によって固定ファンがつくほどです」と長谷川さん。

実際に聴いてみると、その心地よいこと、分かりやすいこと。「星空講談」とでも呼びたい科学ショーが、宇宙の果てまで連れて行ってくれるのだった。

体験する

市立科学館のツボ

サイエンスショー

物理・化学系の学芸員が企画・出演する科学実験ショー。写真は、5月30日(日)まで行われている「電池のヒミツ」。1円玉や塩水で作る手作り電池、観客の子どもたちを巻き込む人間電池などで、やさしく親しみやすく原理を解説する。笑いも挟みつつ、「へえー」と頷きっぱなしの30分。



学天則

堂島にあった大阪毎日新聞の論説委員が、昭和3年（1928）に作った「東洋初のロボット」の実物大模型。圧縮空気で表情を変え、「天則（宇宙と自然界の法則）」を学ぶ人間は、館のコンセプトを体現する存在ということで、入口でお出迎え。



大阪市立科学館

あの湯川秀樹博士も在籍した阪大理学部跡地に、お向かいの関西電力が建物を寄贈したシマに縁の深い施設。4階の「宇宙とその発見」から1階の「電気とエネルギー」まで、子供も大人も楽しめる展示が満載。プラネタリウムは全天周動画のスクリーンとしても活用され、宇宙をテーマにした映像作品も上映。106-6444-5656 9:30AM～5:00PM(入館は30分前まで) 月曜休(祝日の場合開館)



味わいその3
ライブこそ命！
大阪市立科学館

We are Walking-Museum!!

「そのテーマをこれほど熱く語るとは…」と驚きつつも、耳を傾けるうちに魅了されている。
現代の町人学者ともいべきシマの「歩くミュージアム」たち。

取材・文／松本 創(本誌)

●眼鏡

木下敬介さん

眼鏡専門店[THE STAGE]店長

1973年 京都市生まれ

研究歴：18年

お勧めの眼鏡：ウェリントン型

マイ眼鏡を自分で
作ってみませんか？



眼 鏡店を営む家に生まれ、眼鏡専門学校で「認定眼鏡士」の資格を取得しました。今は日本製眼鏡の一大産地、福井県鯖江市にあるメーカーの社員として、淀屋橋・芝川ビルの店[THE STAGE]を担当しています。眼鏡選びは、近視や乱視を正確に検査して、その人に合う度数のレンズを見極めることが一番の基本ですが、ファッションアイテムとしての要素も大切です。顔とのバランス、瞳の位置、眉との間隔。「自分には似合わない」と思うような形や色が意外にピッタリくることもあります。そして、良い物を長く使い続けられること。当店では、職人が1本1本丁寧に作った眼鏡を取り揃え、眼鏡作りの体験教室も開いています。幕末から昭和にかけての眼鏡コレクション、眼鏡の歴史が分かる年表や文献を集めたミニミュージアムも併設しているので、ぜひのぞいてみてくださいね。

●江戸時代の天文学

嘉数次人さん

大阪市立科学館主任学芸員

1965年 大阪市生まれ

研究歴：23年

お勧めの星：一番星の金星

プラネタリウムで
お会いしましょう



天 文学というのは、暦を作り、季節や気候の変化をつかむという生活上の必要から生まれた学問なんです。日本では寛政から文化文政の頃、大坂で大きく発展しました。その中心を担ったのが、麻田剛立という独学の町人学者と、彼が本町に開いた塾「先事館」です。麻田はもともと医師なんです。無類の天文好きでした。自作の道具で太陽の動きや月の満ち欠けを観察して、独自の理論を打ち立てていき、やがて、「幕府の役人より、よっぽど正確な暦を作るやつがおる」と評判になっていきます。麻田の研究を学問として体系立てた間重富、高橋至時という2人の弟子の存在も大きい。日本の天文学の進歩は大坂の豊かな町人文化あってこそなんです——と語っている私は、自称「天文学系学芸員唯一の文系」。科学館にも古い観測道具などを展示していますので、ぜひどうぞ。

●鰻の食文化

亀井哲夫さん

追手門学院上町学プロジェクト委員

1947年 大阪市生まれ

研究歴：4年

お勧めの鰻料理：大阪の地焼き

鰻談満載の本を
出版予定です



30 代の頃、庭のボウフラ対策で金魚やメダカを飼い始めたのを皮切りに川魚にハマリ、魚名の由来や人との関わりを調べ始めたんです。自宅を「雑魚寝館」という淡水魚ミュージアムにして、鰻も飼っていましたが、ずっと食べる方専門で(笑)、本格的に研究を始めたのは4年前。大学の公開講座で鰻の食文化を担当したのがきっかけでした。河口部に棲み、その肌の柔らかさが絹織物に喩えられるアウナギに出会ったことでのめり込んでしまい…。今は岡山の児島湾ぐらいでしか獲れないんですが、かつては大阪湾にも「天保山アオ」という一級品がいたんです。そして、この中之島界隈は古くから鰻料理との縁が深い。江戸時代の図絵にも描かれた北浜の[阿み彦]をはじめ、老舗・名店が揃っています。そういった店を食べ歩くツアーも企画中。目標は「大阪鰻文化」の再興です。

中之島は 大阪の「盛り皿」である。

私は日頃から「中之島は大阪の盛り皿である」という説を唱えている。もしくは陳列場^{ショールーム}と言っても良い。古くは「八十島^{ヤチノシマ}」と呼ばれた大阪は、船場や島之内など、川で区切られたいくつもの島が一緒になった諸島あるいは群島のような場所である。それぞれの島には固有の「生態系」つまりキアラがある。そう考えた時に中之島を特徴づけてきたものは何か？

古くは蔵屋敷、近代以降は役所、ホテル、病院、ホテル。これらの共通点は、常に人が集まってはまた去る流動性があるということ。また蔵屋敷の系統で言う「貯め込む」という特徴もある。図書館、日銀、情報を集める新聞社がこれに当たる。ただし、これも動かす・発信するための一時的なストックと考えれば同じことと言えるかもしれない。中之島というのはいろんなものが来て出ていくという性格を持っている。

美術館もこの性格に当てはまる。東洋陶磁美術館（P4）、国立国際美術館（P2）だけではなく、かつては前衛芸術集団「具体美術協会」による「具体ピナコテカ」もあったし、住友ビルには「大阪府立現代美術センター」があった。朝日会館というホールがあったが、そこには展示場もあった。中之島にはそうした美術館史がある。

「大阪市立近代美術館（仮称）」から 見えてくるもの。

橋爪節也（大阪大学総合学術博物館教授）

中之島4丁目に大きな空き地がある。ここは「大阪市立近代美術館（仮称）」の建設予定地である。しかし、かれこれ20年近くもの間、「建つ、建たない」の噂だけが飛び交う事態となっている。この問題はまた「大阪が都市としてどうあるべきか」を考えることでもあるようだ。

取材・文／大迫 力（本誌）



なかなか進まない 建設計画。

中之島に「大阪市立近代美術館」を建てるという構想自体は古くからあった。1990年の秋に、市政100周年記念事業とすべく、準備室も発足した。あの場所にはかつては大阪大学医学部があり、商業ビルなどではなく文化施設を建てるという条件で大阪市が国から土地を買っている。その後、土壌汚染の問題や広島藩屋敷の遺構が埋まっているといった話を持ち上がりなかなか計画が進まなかったが、建たない理由としてはやはり土地を取得したバブル期以降の経済状況の悪化が大きい。

行政の責任と言うよりは、大阪の街に美術館を求める切迫感がない。現状から言うところのプランクがありすぎる。もし20年前に建っていたら、大阪の人たちの志向性も変わっていたはずだ。そうこうしているうちに「大阪というのとはもともと文化が無い街や」といった雰囲気が増殖してくる。そうすると「なんで美術館なんかいるの？」ということになってしまう。

「大阪Ⅱ非文化都市」の理解は単純すぎる。天王寺にある大阪市立美術館が開館したのは昭和11年（1936）だが、当初は大正13年（1924）に建設される予定だった。これが実現していれば東京よりも京都よりも早く、日本の公立美術館第一号になっていたのだ。この頃の大阪市は、美術協会の設立や市立工芸学

校開校など、“大大阪”をつくるための文化芸術振興策を進めている。世界の大都市たりうるには文化的な都市施設が必要という思想が、当時の大阪にはあったのだろう。

“美術館があった未来”を 想像してみる。

ただ、そろそろ「20年も建たなかったことでどれだけ損をしているのか？」という方向へ頭を切り換えた方がよい。例えば大阪出身のアーティストの森村泰昌さんなんて、建っていたら絶対に特別展をやっている。東京で開催中の彼の特別展が来年、大阪ではなく兵庫県立美術館で行われるが、これなどは象徴的な例だ。

美術館の問題は、人々が大阪に対して抱くイメージの問題でもある。かつての大阪は中央公会堂ができ、ダイビルができ、朝日ビルができて発展していく中で、人々が大阪に対して誇りを持っていたし、そうした立派な建物は商人の街としてのステータスだった。自分の住む街を大大阪と呼んだこの時代の人たちなら、美術館を熱望したはずだ。美術Ⅱムダづかいとなるのは大阪の人が大阪に誇りを持っていないということじゃないか。そちらの方が深刻だ。

はしめ・せつや
専門は日本美術史。特に近世から近代にかけての上方の美術全般に精通する。大阪市立近代美術館（仮称）建設準備室主任学芸員を経て、08年より現職。市民が大阪に対して抱くイメージについての研究は、「大大阪イメージ」増殖するマンモス／モダン都市の幻像（創元社・編著）にも詳しい。



ナカノシマ大学をはじめ、「学びの場」情報も加わり、中之島から大阪へと拡大しつつある『月刊島民』。「遠方に住んでいてなかなか手に入れない」「先月はうっかり取り損ねてしまって…」ファンの方のそんな声に答えるべく、昨年末から試験的に定期購読を行っていましたが、本格的にスタートすることになりました。毎月、確実に読みたい方はぜひお申し込み下さい。

●料金

4ヶ月／800円（2010年6月号～2010年10月号）

10ヶ月／2,000円（2010年6月号～2011年3月号）

※料金には送料・手数料を含みます。

※5月25日（火）までに申し込みいただくようお願いいたします。

●お申し込み方法

1.郵便振替 口座番号：00990-5-299267

2.現金書留 料金を同封し下記の宛先までお送り下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4F

月刊島民プレス（株式会社140B内）宛

◎ご入金を確認した時点で、ご連絡を差し上げます。

郵便振替の場合、手続きに2週間前後かかりますので、ご注意ください。

※諸事情により、到着が2～3日遅れる場合があります。予めご容赦下さい。

※原則として、途中解約は受け付けておりません。

※ご記入いただいた個人情報は冊子・サービスを

お届けするためだけに利用し、その目的以外での利用はいたしません。

●お問い合わせ 月刊島民プレス 定期購読係 106-4799-1340

国立国際美術館にて開催中

「ルノワール伝統と革新」特別メニュー

¥6,800（税込・サ別）

印象派の画家・ルノワールが活躍した時代の伝統料理を取り入れたメニューです。出品作品をモチーフにしたムール貝とサフランのクリームスープや、妻アリーヌが客人をもてなしたという逸話をもとに、たっぷりの野菜と一緒にじっくり煮込んだ牛ホホ肉のポトフをお楽しみいただけます。展覧会の半券をお持ちいただくと割引サービスがございます。

※5月31日（月）まで

●今までよりリーズナブルに、またカジュアルにご利用いただけるよう、ランチ、ディナー共にコース料金を変更しました。

ランチ¥1,800～ ディナー¥4,500～

※共に税込・サ別

ル・コントワール・ド・ブノワ

大阪市北区梅田2-4-9

ブリーゼブリーゼ33F

☎06-6345-4388

<http://www.comptoirbenoit-osaka.com/>

ランチ11:00AM～2:30PM（L.O）

カフェ2:30PM～4:00PM（L.O）

ディナー5:00PM～9:30PM（L.O）

不定休



LE COMPTOIR
de
BENOIT
OSAKA

伝統の上にこそ、
革新は生まれます。



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

みんなで
橋の話を
しよう!

2010年
6月講座

「Talk about bridges!! returns」 ぼむ企画 (建築ライター)

あの人気連載が帰ってきた!
大阪の橋の見どころがわかる、
渡りたくなる「橋トーク」炸裂。

迫力満点のイラストでもおなじみの
「Talk about bridges!! 橋の話をしよう」
と言えば、本誌でも一、二を争う大人気
を誇った連載。その人気コーナーが復
活! 名建築の誉れ高い大阪倶楽部をス
テージに、建築ライターユニット・ぼむ
企画のお二人が連載さながらの漫才的橋
談義を繰り広げる。さすがに「八百八橋」と
呼ばれた街だけあり、大阪には個性たっ
ぷりの橋がいっぱい。その建築的見ど
ころや街の歴史と切り離せない誕生秘話な
どをいつものボケ&ツッコミ調でお届け。

さらに中之島随一の「橋画伯」の異名
をとる本誌編集部編の綱本武雄も登場。描
く立場から、橋を眺める際のポイントや
素敵な景色に出会うコツをお話します。
そしてさらに、大阪市建設局橋梁担当課
の西川匡課長もお招きして、全国でも珍
しい橋の建設・管理を専門に行う「橋梁
担当」のスゴ腕ぶりをご披露いただきま
す。聞けば必ず見たくなる、渡りたくな
る橋好きたちによる橋トーク、お聞き逃
しなく!



綱本画伯の
名作イラストを
特別パネル展示!



ぼむ企画が解説。
普段は見られない
大阪倶楽部の
館内見学タイムも!



募集要項	「みんなで橋の話をしよう! Talk about bridges!! returns」 講師/ぼむ企画(建築ライター) ゲスト/西川 匡(大阪市建設局橋梁担当課長) 綱本武雄(本誌編集部) 日時/6月18日(金) 7:00PM ~ (開場6:00PM ~) 会場/大阪倶楽部 →地図P23 (京阪電車・地下鉄淀屋橋駅徒歩5分) 受講料/2,000円 定員/200名 主催/ナカノシマ大学事務局 協力/大阪21世紀協会 大阪市 竹中工務店	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「月刊島民ナカノシマ大学6月講座」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。
------	---	--

ナカノシマ大学の最新情報は <http://www.nakanoshima-univ.com>

お問い合わせ106-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)



ナカノシマ大学5月講座も好評受付中!

「風雲急!? 幕末大坂の風景」



大河ドラマでは土佐や長州、京都のことばかりで、一体大坂の幕末はどんなことになっていただろう? 先月号の特集にもご登場いただいた「なにわの語り部」こと大阪大学招聘教授の高島幸次先生が、自慢のライブトークで幕末の大坂の風景を甦らせます。江戸時代に描かれた絵図や、現在も残っている遺構、はたまた古文書など、あらゆる手がかりを使って過去の風景を探る試みはまさに歴史の復元作業と呼んで良いでしょう。中でも高島先生は、現在も天王寺公園に残されている黒田藩屋敷の門に見られる「なまこ壁」を、「これこそ幕末大坂のランドマーク」と断言します。坂本龍馬だけが幕末の主役ではありません。大坂の知られざるダイナミックな幕末伝はぜひ、「生トーク」で楽しんでください!

●募集要項 日時/5月20日(木) 7:00PM~(開場6:30PM~) 会場/追手門学院 大阪城スクエア →地図P23 受講料/1,800円 定員/150名 主催/ナカノシマ大学事務局 協力/大阪21世紀協会 追手門学院 ◎申し込みはナカノシマ大学ホームページから。または事務局へハガキ、ファックスで。

※ハガキ、ファックスの宛先はP9をご覧ください。

「お爺ちゃんと俺の二人展」



写真家のレンジャー前田さんを迎え、今昔の中之島の風景を楽しむミニ講座&撮影会。カメラ好き、レトロ建築好き、中之島好きに送る企画の詳細が決まった。まずは祖父が遺した戦前の風景写真を追って、前田さんが撮り続けているライフワーク「二人展」について、中之島に絞って語ってもらう。会場は昭和2年(1927)完成の淀屋橋のレトロ建築「芝川ビル」4階のモダンテラスで、こちらは撮影自由。同ビル地下の人気コーヒー店[Mole Hosoi Coffee]のブレンドを、ナカノシマ大学特別価格(1杯300円)で販売する。

自由参加の撮影会は、個々に昼食を取った後、午後1時半ごろをめぐりに大阪市中央公会堂前からスタート。「二人展」で切り取った風景を追って中之島を西へ。堂島ビルの外観、田菱橋からの眺め、堂島大橋、越中橋などを撮り歩く。終了は午後3時半ごろの予定。

●募集要項 日時/5月15日(土) 講座10:30AM~(開場10:00AM)+撮影会13:30~ 会場/芝川ビル4F →地図P23 受講料/1,500円 定員/40名 ◎申し込みはナカノシマ大学事務局へハガキ、ファックスか、レンジャー前田さんのブログから。



ナカノシマ大学 講義レポート

3月9日(火)

「仏教がわかれば、落語がわかる!」

@りそな銀行大阪本社 講師/釈 徹宗 桂 文鹿

大の演芸マニアであり、落語の中の仏教を解説した著書もある釈徹宗先生。仏教系大学を出て入門歴15年、全国各地の寄席やテレビで活躍中の桂文鹿さん。本誌19号の落語特集を飾ってくれたお二人が顔を合わせたナカノシマ大学3月講座のテーマは、ずばり「仏教がわかれば落語がわかる!」。

仏教とは、釈先生によれば「苦しみ多い人生をいかに引き受けて生き抜くかという人類の知恵の結晶」。そこから生まれた芸能は、舞謡、演劇、浄瑠璃まで数多い。語り芸の代表である落語は「一人の人間が扮装もメイクアップも背景もなしに正座して語り続ける世界でも例のない話芸のスタイル」。



ルは、仏教のお説教がルーツになっているから」なんだそう。

仏教と不可分な

関係にある落語。当然、ネタの中にもその色は濃い。定番の『寿限無』でも、子供の名付けという行為の中に多くの宗教知識が盛り込まれているし、釈先生がアレンジ台本を手掛けた『お文さま』は、船場の商人たちの熱心な浄土真宗信仰が背景になっている。

「仏教を少し知るだけで、噺の理解度や面白さがまるで違ってくる」と釈先生。といて、仏の教えを有り難がるばかりじゃない。人間の業を笑う落語は、ルーツである仏法や僧侶も笑いの対象にしてしまうのだ。「原理主義ではこうはいかない。宗教を笑うには、成熟した宗教性と高い文化性が必要なんです」。

続

いて高座に上がった文鹿さん、まずは仏教ネタの洒落や小話などをたっぷりと披露し、次々と笑いを引き起



こす。「釈先生の言っていたのはこういうことだったのか」と、軽やかに教えてくれた。この日のお題は『淀川』。活け魚を売り物にする魚屋に現れたお坊さんが、殺生を戒め、俎上の魚を買い取るうちに、どんな話はエスカレートして…という噺。一瞬「ええっ」というシュールなサゲも、文鹿さんの話術で、笑いとともに着地。最後は本日の講義&口演を振り返るお二人の対談までオマケについて、120人の受講生たちは、アタマとカラダで落語と仏教の世界を堪能したのだった。



大阪の「鍋料理」を 新たな食ブランドに！

◎小冊子「大阪鍋騒動」のご紹介

大阪に暮らしている私たちはあまり気づかないが、他府県から移り住んできた人たちは、水菜、春菊などの野菜やアンコウ、フグ、クエなど、スーパーマーケットで売られている鍋料理の具材の多彩なラインナップに一様に驚くといえます。冬場に家庭で行われる鍋の頻度も、関東に比べるとかなり

高く、フグの消費量は全国1位で6割に達し、春菊の出荷量も全国2位となっています。

大阪にはかつて、京橋口に川魚専門の市場、天満には青物市場や雑喉場（ざごば）があり、摂津平野の野菜や瀬戸内の魚介類など、新鮮な食材がふんだんに入ってくる地の利を占めていました。また、



北前船で北海道の上質な昆布が運ばれてきたことで、「ダシ」の文化が生まれました。ダシが旨いから、鍋が旨い。新鮮な食材が豊富な上に、ダシの旨みが重なり、奥深い料理へと昇華していったといえます。

諸国の物産が集まり、「天下の台所」と呼ばれた大阪には、鍋物文化を育む素地がありました。

今回発行した小冊子「大阪鍋騒動」では、大阪の「鍋料理」の魅力を一挙に紹介し、新たな大阪の食ブランドとしての可能性を提示してみました。

大阪21世紀協会ホームページ 「大阪ブランド情報局」で 人気連載中の「多士彩才」が 本になりました。

大阪を愛し、文化・まちづくりなどいろいろなジャンルで、大阪を元気にしようと活躍しているアーティスト・クリエイター・プロデューサーなど、多彩な才人75名を一挙に紹介しています。

A5版 240ページ 定価／1,700円（税込み）
発行／財団法人大阪21世紀協会 発売／新風書房
※書店にない場合は、以下にお問い合わせください。



読者の皆様に小冊子
「大阪鍋騒動」をプレゼント！

B6サイズの冊子が入る返信用封筒に、送付先の郵便番号、ご住所、お名前をご記入の上、140円分の切手を貼り、下記の宛先までお申し込みください。なお、配布部数には限りがありますので予めご容赦ください。
〒540-0032
大阪市中央区天満橋京町1-1
大阪キャッスルホテル4F
財団法人大阪21世紀協会
「大阪鍋騒動」プレゼント係
Tel.06-6942-2006



財団 大阪21世紀協会

21世紀の懷徳堂プロジェクト 5月の時間割

ナカノシマ大学ほか、中之島周辺の「遊びの場」の時間割をご紹介します。



大阪カルチャークラスター!

大阪カルチャークラスター!! (OCC!!) では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。※ワークショップについてのお問い合わせは各店舗へお願いします。

2	日	1:00PM~/4:00PM~	『「kawaii」リアルクローズ考察』KatoKuniko(ファッションデザイナー) 定員:10名(入れ替え制) 参加費:無料(各回約1時間・先着でお土産付) デザイナーKatoKunikoとは一緒に、リアルクローズとしての「可愛い」を考察してみませんか?	会場D
8	土	1:00PM~/4:00PM	「HOP21のひょうたん栽培講座」折原広仁(HOP21) 受講料:1,888円(千成ひょうたんの苗、栽培読本つき) ひょうたんの実で楽器を自作し演奏する楽団「HOP21」が、プランターでもできるひょうたんの栽培方法を伝授します。	会場C
9	日	0:30PM~/5:00PM	「Plain Life 革小物教室」尾崎 美穂(革小物作家) 受講料:5,000円(材料費・テキスト・ドリンク込み) millibar salonでお茶をしながら物作り。基本のカタチに工夫を加えて、あなただけの革小物にチャレンジです。	会場E
14	金	7:30PM~/9:00PM	「サロン・ド・日々嘉綴(ひびかて)」岩淵拓郎(美術家/執筆・編集者) 受講料:1,000円 関西アートシーンから最新ガジェットまで、最近気になること(iPadほか)をお伝えします。	会場A
15	土	5:00PM~/7:30PM ※終了後 交流会あり	「奥村昭夫デザインワークショップ」奥村昭夫(グラフィックデザイナー) 受講料:3,800円(一括払いの場合、割引あり/交流会の料金は含みません) グリコのロゴや牛乳石鹸のパッケージなどで有名なグラフィックデザイナーによるデザインワークショップ。	会場B
16	日	10:15AM~/1:15PM/2:15PM~/5:15PM	「トリ・スクール」岡山 拓(美術家) 受講料:2,500円(ドリンク付) 展覧会カタログを参照しながら、初めての人でも分かるように美術史や各種ムーブメントについてお話をします。	会場E
16	日	11:00AM~/0:30PM	「マクロビオティックサロン」豊村恵子(料理研究家) 受講料:2,000円(料理費込み) 「ネリKitchen」の豊村さんが、「車麩(くるまふ)」を使った料理の作り方を紹介します。	会場A
16	日	2:00PM~/3:30PM	「手芸のワークショップ」なかごしあつこ(アクセサリーづくり) 受講料:1,500円(材料費込み) 「フェルトのコサージュ」をつくります。40色の中から好きな色を組み合わせてつくります。	会場A
16	日	4:30PM~/6:00PM	「手拭いを使った小物作りのワークショップ」あかい凛(テヌグイスト) 受講料:1,000円 手拭いを使って「ブックカバーや手帳カバー」をつくります。※手拭いは持参して下さい。	会場A
16	日	7:00PM~/8:30PM	「twitter(+ustream)の上手な使い方を身につけるサロン」狩野哲也(コピーライター) 受講料:1,000円 これから使ってみようという方、使い方をわからないまま使っているという方向けのお話です。	会場A
18	火	7:00PM~/8:30PM	「楽しむ紅茶」納多寿恵子(ティーライフコーディネーター) 受講料:2,000円(紅茶、お菓子つき) おいしい紅茶の淹れ方と、紅茶の効能や産地、TPOにあわせた楽しみ方などを紹介します。紅茶とお菓子をいただきながらの講習会です。	会場C
20	木	7:00PM~/8:30PM	「落語を楽しむ」桂蝶六(落語家) 受講料:2,000円 登場人物の目線や背景などを理解しておくことで、落語鑑賞がもっと面白くなります。	会場C

A 中崎町サロン文化大学

大阪市北区鶴野町

<http://nakazakicho-u.blogspot.com/>

B OOO(オー)

大阪市北区西天満4-1-5 若松町センタービル 2c

106-6362-5150 <http://www.outoffice.jp/>

C フレイムハウス

大阪市中央区淡路町1-6-4 106-6226-0107

misalele39@gmail.com <http://www.katana.cx/~fureimu/>

D タビエスタイル

大阪市中央区南船場4-4-17 B1 106-4963-7450

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~tapie/>

E 欧風食堂 ミリバー

大阪市西区立売堀1-12-17 artniks bld.

06-6531-7811

<http://www.artniks.jp/millibar/>

大阪文化芸術学舎
水の都物語シリーズ

ヴェネツィア・江戸・大坂 ~「水都」のものがたり~

講師/陣内秀信(法政大学教授)



日本では「水」のもつ役割・意味が、世界のどんな国よりも大きかったと考えられています。中でも私たちの住む大阪や東京などの水辺の都市は、舟運・産業・経済活動ばかりか、宗教的・儀礼的な役割、そして遊びの要素とも密接に結びついていました。

こうした水都の特徴について、テレビでもおなじみの陣内秀信先生に、ヴェネツィアをはじめアムステルダムやバンコクなど、世界の美しい水都と比較しながら語っていただきます。

5月16日(日) 14:00~17:00頃(懇親会を含む)

会場/追手門学院大阪城スクエア 6F大手前ホール

(懇親会は隣のドーンセンター内会場)

参加費/講演会2,000円 懇親会(ブッフェ&ワイン)2,800円

※月刊島民読者優待価格

定員/60名

申し込み方法/1070-5438-5387 FAX.072-856-8902

e-mail/info@takarazuka-sc.com

(懇親会参加の方は「懇親会参加」とお書き下さい)

主催/大阪文化芸術学舎・宝塚教養学校

協力/追手門学院 ナカノシマ大学 月刊島民

15 29	土	1:30PM~ 3:00PM	「キッチンの実験室—料理を肴に科学しよう!」小倉明彦(生命機能研究科教授) 受講料:3,150円(全2回) けの朝食。パンの気泡には何が入っていたのでしょうか。卵を茹でたらなぜ固まったのでしょうか。料理や食事は日常のことですが、科学の素材がいっぱい詰まっています。第1回目にはカレーライスを、第2回目にはラーメンを題材にして、不思議を引き出してみます。
22 6/19	土	10:30AM~ 12:00PM	「免疫病との闘い〜関節リウマチ・アレルギー」田中敏郎(医学系研究科准教授) 受講料:3,150円(全2回) 免疫システムは生体を守る重要な防御機構である一方、自己免疫疾患やアレルギーの原因となります。関節リウマチは関節に対する自己免疫応答によって発症し、またアレルギーはダニや花粉などの環境物質に対する過剰な免疫応答により発症します。大阪大学の研究成果も含め、第1回目「関節リウマチ」、第2回目「アレルギー」について講義します。

会場/大阪大学中之島センター

インターネット、電話、ファックスか、朝日カルチャーセンターの窓口でも直接申し込むことができます。

問い合わせ/朝日カルチャーセンター(中之島)106-6222-5224 <http://www.asahi-culture.co.jp/index.html> 106-6222-5224 FAX06-6222-5221



レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、
京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階の[アートエリアB1]。5月のラインアップはこんな感じ。

12	水	7:00PM~ 9:00PM	中之島哲学コレージュ/哲学カフェ「無償の贈与は成り立つか?」定員50名 コーヒを飲みながら、日常生活から科学や芸術まで、幅広いテーマについて参加者みんなで議論を楽しみます。4・5月のテーマは「贈与」。今回のテーマは「無償の贈与は成り立つか?」です。見返りを求めずに与えることはできるのか?
20	木	7:00PM~ 9:00PM	実践型:オルタナティブカフェ「手芸・裁縫リターンズ」定員40名 私たちの暮らしを主に文化の視点から捉え直し、その意味や形態について考えるための公開型ミーティングです。熱いリクエストにお応えして「手芸・裁縫」カフェを再び実施。各自、裁縫に必要なものを持ち寄って楽しみましょう。
21	金	7:00PM~ 9:00PM	中之島哲学コレージュ/セミナー「臓器移植法改正—何が変わるの?」定員50名 今年の7月から新しい臓器移植法が施行されます。これまでの法律と新しい法律では何が変わるのでしょうか?今回の法律の改正を手がかりに、臓器移植そのものの意味や脳死の問題について話し合います。
25	火	7:00PM~ 9:00PM	サイエンスカフェ「市民の視点で『科学技術』を考える:『再生医療』の課題から」定員20名(時間通りにお越しください) 環境や社会に大きな影響を与える科学技術を専門家だけにまかせるのではなく、市民参加型で考えるアセスメント手法の開発にご参加下さい。再生医療の問題をテーマにサイエンスカフェ手法で参加者の皆さんと考えます。
26	水	7:00PM~ 9:00PM	鉄道カフェ「鉄カフェをみんなで考える13」定員30名 我こそは!という鉄道ファンから、全くの初心者まで、幅広い層が参加する鉄道カフェ。参加者によるプレゼンテーションや素朴な疑問から派生した議論など、鉄道に関する様々な情報交換と対話が繰り広げられています。
28	金	6:30PM~ 8:30PM	中之島カフェ「中之島の学びを考える」定員30名(要事前申込/morikuri@cscd.osaka-u.ac.jp) なにわ橋駅のある中之島での学びに関して、ナカノシマ大学の実践を試みている江弘毅氏に、多様なご提案をいただき、大阪の都市と文化をこよなく愛するイベントプロデュースの第一人者:橋爪紳也氏に受けていただき議論します。
30	日	1:30PM~ 4:00PM	シアターカフェ「演劇でエコ?エデュ?生物多様性?」定員30名 演劇のアトリートとして、小劇場俳優が講師を務め、演劇ワークショップで環境学習を行う、「演劇で学ぼう!環境編」のご紹介。また参加者のみなさんに体験していただける、環境のプロによるネイチャーゲームを実施します。

会場/アートエリアB1

問い合わせ/[カフェの内容について]大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD) 106-6850-6111(豊中キャンパス代表)

参加費/すべて無料

[場所などについて]アートエリアB1 106-6226-4006 ※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

開場/それぞれ開始30分前から ※5/28以外は申し込みは不要ですが、当日先着順とさせていただきます(入退場自由)。※お客さま参加型のプログラムです。

一万人の感動

最高の音響、照明でドラマチックな舞台を演出。

コンサート、スポーツ、コンベンションなど、

さまざまなイベントに対応するビッグなアリーナです。

財団法人大阪城ホール

〒540-0002 大阪市中央区大阪城3-1

TEL.06(6941)0345 HP:<http://www.osaka-johall.com>

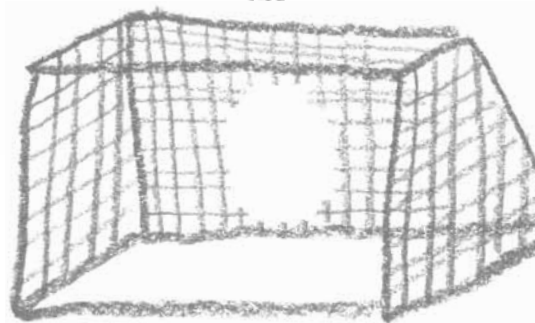
地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク」駅下車徒歩3分

JR大阪環状線「大阪城公園」駅下車徒歩5分

研修会、講演会、展示会に、
コンベンションホール(150人収容)をご利用ください。



中之島ふら青春記⑫ 久坂部 羊 サッカー部の ヤクザの息子



大学時代、私はサッカー部に所属していた。といっても練習の厳しい全学のクラブではなく、同好会に近い医・歯学部クラブである。

小・中、高校までは正規のクラブで、高校では一時期挫折したが、それ以外は毎日、サッカーに明け暮れていた。

医・歯学部のサッカー部は、練習が週に2回で、当時、医・歯学部のあった中之島に近い鞆公園でやっていた。グラウンドに車で乗りつけ、2時間ほどボールを蹴って、あとは飲みに行ったりデートをしたりという軟弱なクラブである。それでも高校までの経験者が多かったせいか、大会ではまあまあの成績をあげた。

いちばんよかったのは、2年生のときの西日本医科学学生総合体育大会の3位だった。この大会は西日本のすべての医学部が参加するもので、毎年夏に開かれていた。3位になるまでには、トーナメントで4試合あったから、そこそ

このチーム数だったと思う。

そのとき、私のポジションはフォワードで、準々決勝で試合終了直前に決勝ゴールを決め、自ら「チャンスに強い男」をもって任じた。ところが、翌日の準決勝で大事なPKをはずしてしまい、一挙に自信喪失。以後、「チャンスに弱い男」のレッテルは、引退するまで取れなかった。

5年生のとき、私は新入生のオリエンテーションで、部員の募集のためのクラブ説明を行った。説明を終えて、先に帰りかけると、1人の新入生が私を追いかけてきて、堂島川の橋の上で入部したいと声をかけてきた。医学生らしからぬ蓬髪で、目に異彩のある青年だった。サッカーの経験はと聞くと、ないと言うので、なぜサッカーをと訊ねると、「アンタの説明がよかったから」と、妙な答えが返ってきた。どんな

説明をしたのか覚えていないが、それがKと私の出会いだった。

Kは広島県の出身で、言葉に訛りがあった。背はさほど高くないが、筋肉質でがっちりしていた。左目の白目の部分に、茶色い星のようなシミがあり、それが無邪気そうな大きな目に、不吉な陰を落としているようだった。

Kは陽気で多弁で、嘘ともほんとうともつかないことをよくしゃべった。

最初に聞いたのは、彼の知能指数が160あるという話だ。それで小学生のころ、広島大学に連れて行かれて、研究材料にされたと言っていた。真偽のほどはわからない。そんなに優秀なら、なぜ東大や京大に行かなかったのかと思っただけ、K曰く、頭がよかったのは小学生のころまでで、今はだめになったからとのことだった。その当意即妙のかわし方が、またなんとも怪しかった。

練習が終わって着替えていると、Kは遅い裸体を誇示しつつ、高校のころはよくサラシを巻いてケンカに行ったというようなことを話した。まるでヤクザだなと笑うと、「父さんは背中にモンモンを背負うてるから」と言った。まさかと思ったが、それはやはり倶利伽羅紋紋のことだった。ということは、Kは本物のヤクザの息子なのか。聞いたですと、彼は言葉を濁したが、それは父親がヤクザであることを恥じてなのか、もともと嘘なのか、わからない微妙さだった。

それでも一度だけ、ヤクザの息子らしい片鱗を見せたことがある。クラブの飲み会で、歯学部の新入部員が、高校時代に暴走族だったと吹聴していたときのことだ。ミナミをバイクでブイブイいわせてというようなことを、かなり粋がって話していた。みんな冗談半分に聞いているが、Kがふと、「大きなこと言いよって」と洩らしたので、私はぎょっとした。彼はあぐらの膝に顎肘をついて、歯学部部員を斜めににらんでいたが、その目が恐ろしく凶暴だったのだ。私は殺気を感じて、「冗談だから気にすんな」と真剣にKをなだめた。

Kは私と気が合い、練習の行き帰りなどによく話した。彼は奇抜な恰好が好きで、それは私も同じだったので意気投合した。私は一年ほど前に女物のレースのブルオーバーを買ひ、何度か着たが似合わないの、ダンスにしまい込んでいた。その話をする、Kが着てみたいと言うので、彼に譲ることにした。ところが家に帰ってさがすと、いつの間にか母が捨ててしまっただけに見つからない。次の練習のときに「なかった」と言つと、Kの目がずつと細まり、いくつかの凶暴さを浮かべたので、私はぞつとした。彼にはそういう迫力があつた。

また、彼にはかなり年上の愛人がいて、私に「愛撫」の仕方を教えてくれたこともある。中指を反らせて指の関節を膨らませ、指先で内部を、関節で外側を刺激するとよいのだという。当時、彼女はいたが実践段階にはほど遠かった。私は、いつか役に立つかなと思いつつ拝聴した。

夏の合宿で信州菅平に行ったとき、Kは駅の売店で万引きをした。店員が隙を見せた瞬間、さつとガムをポケットに入れたのだ。私は突然のことでも言えず、あとで注意すると、「大丈夫ですよ。見つからんけ」と言った。そういう問題じゃないだろうと叱つたが、彼は平然としていた。単なるゲーム感覚のようで、罪の意識はまるでないようだった。

合宿での練習中、彼がペンダントをしているのに気づいた私は、危ないからはずせと注意した。すると彼は走りながらそれを取って、私に放り投げた。私が受け損ね、どこへいったかわからなくなった。練習を中止して全員でさがしたが、まるで神隠しにあつたかのように見つからない。するとKは必死にさがしながら、ペン

ダントの来歴を語りはじめた。

「あれは従妹からもううたもんなんや。かわいい従妹で、ボクになっていたけど、病気になるって、死ぬ間際に、おにいちちゃん、これ持つて、今までありがとうって言つて……」

そこで彼は号泣しはじめ、腕で目をこすりながら突然、「うわーっ」と叫んでグラウンドから走り去った。みんなあつけにとられたが、どうすることもできない。激情家の彼のことだから、妙な気でも起こさないかと心配したが、二時間ほどしてもどつてきた。ペンダントも無事見つかり、私は安堵の胸をなで下ろした。

5回生の秋にクラブを引退したあと、私は一度だけKを教養部のキャンパスで見かけた。実習中らしく白衣を着ていたが、クイーンのブライアン・メイのようなライオンヘアーに、ジャラジャラした首飾りをつけ、ハイヒールのサンダルを履いた姿は、とても医学生には見えなかった。Kらしいと苦笑したが、患者を診察する実習になったらどうするかと危ぶんだ。

その翌年の夏、Kは友だちと沖繩に旅行し、レンタカーでジープを借り、女性をナンパしたあと、曲乗りのような運転をして転倒。死亡した。幻のようなあつけない最期だった。

もし、彼が死なずにいたら、どんな医師になっていただろう。型破りだが、案外、情に厚い医師になっていたかもしれない。そう思うと、惜しまれる。

くさかべよう 1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。

麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『魔用身』（幻冬舎文庫）でデビュー。

現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える

契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。

「安楽死をテーマにした長編『神の手』（上・下）が、

今月末NHK出版より刊行予定。構想5年の大作です。乞うご期待。」



休日のお出かけは 大阪マルシェへ!



大阪マルシェ「ほんまもん」は、地元生産者の方の自慢の食材が並び、
安心・正直・新鮮・おいしいをモットーにした市場（マルシェ）です。

今月は毎週土曜日に中之島公園で朝市を開催するほか、
ゴールデンウィークには花博記念公園で開催される花・緑フェスタに出店。

さらにOAPで行われるグリーンフェスタにも出店します。

初夏の休日は大阪マルシェでお会いしましょう。

●4・5月のスケジュール

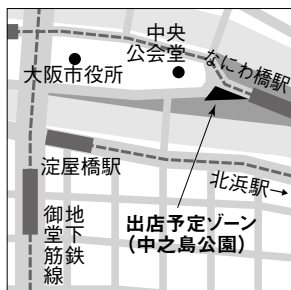
※開催時間は諸事情により、直前に変更になる場合があります。

月	火	水	木	金	土	日
			4/29	30	5/1	2
3	4	5	6	7	8 この日はお休み	9
10	11	12	13	14	15	16 OAPグリーン フェスタに出店! 11:00AM~4:00PM
17	18	19	20	21	22	23
24 31	25	26	27	28	29	30

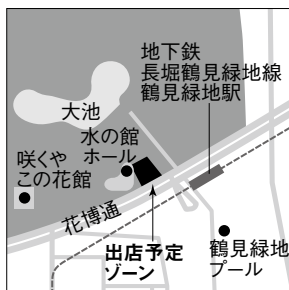
4/29~5/5は
花博記念公園で!
10:00AM~4:30PM
5/5は~3:30PM

毎週土曜日は
中之島朝市
10:00AM~3:00PM

中之島公園



鶴見緑地



OAP



開催情報、出店のお申し込みなどお問い合わせは

☎072-415-4500

大阪マルシェ「ほんまもん」事務局
大阪府東淀川区佐野市公園緑化協会内

第15回

[関西棋院 囲碁サロン]@日本文化会館



中之島ゆえ？ 碁盤を囲む多彩な顔ぶれ。

せんだんのきばし
梅檀木橋の南詰めから少し

東へ入った場所に建つ日本文化会館。各階では日本画、茶道、日舞などまさにビルの名前にふさわしい教室が開かれている。その1階にあり、ひととき熱気を帯びているのが「関西棋院 囲碁サロン」だ。関西棋院が設立されたのは昭和25年(1950)。当時、東京一極集中だった囲碁文化を関西でも発展させるべく、財界



初心者サークルには20代のOLさんも。碁石の打ち方から勝負のポイントまで、先生が生徒全員と対局しながら教えてくれる。

の援助を受け、プロ棋士の養成や対局の実施・運営を行う組織として誕生した。もともと天王寺の細工谷にあったが、昭和43年(1968)に日本文化会館ができる際に移転。後援者である新聞社などの企業のお膝元に移ってきたと考えれば、大阪のど真ん中というロケーションにも納得がいく。

サロン内ではみな一心に囲碁を打っている。「長い方で20～30年通ってらっしゃる方もいます」と語るのは囲碁サロン責任者の小北美子さん(右写真)。常連客にはやはりリタイアされた方が多く、「普段の生活と違う思考ができて頭の体操になる」という声のほか、「碁盤を挟んで職場での役職、身分と違う関係性が築けて楽しい」と話す仕事帰りのサラリーマンも。「碁石を配置する戦略が会社の営業戦略にも使える」と開眼した営業マンもいたそう。



関西棋院の創始者である故・橋本宇太郎九段の筆による扇子。「静かな気持ちで物事をよく見よ」と。

他にも碁石の打ち方から教えてくれる初心者向け講座も開かれており、これから囲碁を始めようという人も多い。「以前、近所に勤めていた方やふと通りがかって見つけた方など、他のサロンと比べると本当にいるんさっかけで来られます」と小北さん。碁盤を囲むまさに老若男女といった顔ぶれは、多くの人が行き交うこの場所ならではのと言えそう。

関西棋院 囲碁サロン

囲碁の初心者から上級者まで幅広い人が訪れる。入場料を払えばビジターでも利用可能。会員はイベントの参加料割引等、各種割引が受けられる特典がある。今年6月に開催する関西棋院の60周年イベントを企画中とのこと。入場料(ビジター)男性1,500円、女性・学生1,200円。106-6231-1589 11:00AM～9:00PM 土曜(12:00PM～7:00PM、日・祝は貸切のみ、要予約)



中之島からゆく
駅前オーライ!
第2回

千林

文／江 弘毅（本誌） 絵／綱本武雄（本誌）

「昭和」が断絶されることなく続く、 大阪という街の典型。

京橋に続いて、この千林を第2回目の「駅前」に選ぶとして「下町ばかりですね」と編集担当にも画担当の綱本さんにも言われた。別に下町好きだから続いて千林を、という理由ではない。京阪沿線を語るには、千林はどうしても外せないと思ったからだ。京橋も千林も下町だが、まるで違った下町である。

千林商店街は「ダイエー発祥の地」であり、この4月の「100円商店街」が話題になったり、「どこにでも商店街がある大阪」のなかでも、代表格の商店街のように語られている。実際の商店街のある旭区には、何と14の商店街がある（大阪商工会議所「旭区商店街案内マップ」による）が、千林商店街（振興組合）が最大の規模のものすごく元気である。

その小冊子をめくりながら京橋から普通に乗る。ふと車内吊り広告が目にとまり、女性タウン誌の「京阪沿線・カフェとパン屋とごはん 枚方、樟葉、香里園、寝屋川……」というのがあって、それを見ながら電車で揺られる。守口

市まで野江、関目、森小路、千林、滝井、土居と続く6駅はどれも近く、まるで路面電車感覚のようで、それがこの沿線の街の特徴を物語っている。しかしどこもこの女性タウン誌には登場しない。この感覚のスレや違いは街的にはとても重要である。

京阪千林は西改札口に出るといきなり商店街で、「駅と商店街の境界が改札口」みたいな感じだ。これを「千林駅前」などといった即席な表現で示すことは出来ない。

国道1号線まで延びる千林商店街はファッションや日用品など物販中心の商店街であり、ところどころに食料品の店が混じっている。同じように軒先を並べる三井住友銀行やマクドナルドよりも、その向かいの昆布屋さんや隣のカジュアル服屋さんとかの方が偉そうなところが、この街ならではの手触りを物語っている。

もう一つ面白いのは、千林駅から右へ折れてすぐの路地に入る、あるいはアーケードを西に進んでほどなくある「力餅食堂」の角を曲がると、ジグ

ザグ変形四ツ角三叉路ありの迷路のような「ジャンジャン横丁商店街（会）」に出くわすのだ。ここは千林商店街が背骨としたら、まるでその腹部のような商店街である。その60店舗は8割方が飲食店で、そのうちお好み焼きと焼鳥が10ばかりあるなかに特徴ある「横丁」だ。旧いファンなら一目でそれとわかる「サントリバー」も今も営業中で、そこでは蝶ネクタイのマスターがカクテルをつくってくれる。昭和32年にオープンしたこの店の2代目マスターは、この横丁の生き字引的存在で、野坂昭如と一緒に写っている写真を見せてくれた。

千林はかの『工口事師たち』ゆかりの土地なのである。さっそく家に帰って新潮文庫版のそれをめくると、55ページに「筋書きは、まず女が買物にでかけるねん、これは千林で撮ったらええわ」と出てくる。それが一体どこかはわからないが、1960年代それも万博前の「昭和」という時代が断絶されることなく生きている、大阪という街の典型をこの千林に見る。

京橋で
早くも話題！

前回取り上げた京橋「立ち飲み横丁」の一軒に、読者の方が載ってましたね！とお祝いに。すると、店主も客も一緒になって熟読。カウンターを『月刊島民』が占拠した！



トウミン月報

2010年5月1日発行

昨年、ABCホールの開館1周年を記念して開催された「中之島春の文化祭2010」が今年も開催される。決まっているのは出演者が20分の持ち時間の中で得意のパフォーマンスを繰り広げるとい

とだけ。出演者のラインアップを見れば、ひとつのカテゴリーにくくりきれないさまざまなアーティストが勢揃い。演劇・ダンス・音楽・落語・お笑いなど、何でもありのまさに文化祭といったベ

ントになりそうだ。2回目となる今年は総勢30組以上が出演。爆笑もあれば感動もあるステージが期待できる。
屋外のステージでもイベントが開催されるほか（雨天中止）、手作りカフェや自家製おにぎりなどが並ぶフードコートにも登場する。大勢の中から、自分のツボにはまるアーティストに出会えるかもしれない。（大迫力・本誌）

中之島春の文化祭2010
日時/5月2日(日)2:00PM~7:30PM (開場1:15PM~)
5月3日(祝)1:00PM~7:30PM (開場12:15PM~)
入場料/1日券2,000円(2日通し券3,000円)
会場/ABCホール
出演者情報やチケットの予約の詳細はABCホールのHPにて。
<http://asahi.co.jp/abchall/>
※前売り券は売り切れの場合があります。

ABCホールで春の文化祭開催



全国各地で話題の「パワースポット」。京阪神各地にもさまざまな場所があるけれど、京阪沿線のスポットを紹介する冊子「京阪電車で京都・滋賀・大阪へパワースポットめぐり」が登場した。女性誌『SAVVY』とタイアップしたもの。鞍馬寺や貴船神社といった“聖地”や大自然に包まれた石清水八幡宮といったパワースポットのほか、建仁寺・両足院で行われているヨガ体

験や恋愛成就に効く神社なども紹介されている。中之島周辺では大阪天満宮が登場。各スポットの近くで食べられるスイーツや美術館・博物館の展覧会情報も一緒に紹介されているので、ゴールデンウィークのおでかけやふらりと出かけたくなった時に手にすると、一冊であれこれ楽しめそうだ。京阪電車の主要駅で配付されている。（大迫力・本誌）



京阪電車でゆくパワースポット

本誌でも随一の人気を誇った「Talk about Bridges」橋の話をしよう」でもおなじみの建築ライターユニット・ぼむ企画のお二人が、大阪市立住まい情報センターでトークイベントを行う。

中之島だけでなく、大阪市内の建築物や橋の「おもしろさ・きわどさ」を掛け合い漫談形式で繰り広げる予定とのこと。終了後は、トークに出できた橋や建築を実際に足を運んで見てみるの也不错いかもしれない。(大迫力・本誌)

私選・大阪市内の建物と橋
日時/5月23日(日)13:00PM~3:00PM (受付1:00PM~)
会場/大阪市立住まい情報センター
(大阪市北区天神橋6-4-20) 3階ホール
参加費/無料
定員/100名 (応募者多数の場合は抽選)



「大阪旋風」の中心は中之島？ ビジュアルガイド発刊

「吉本・タコ焼き・タイガース」だけじゃない大阪を掘り起こし、発信する動きが各方面で盛んだが、その一つ、「大阪旋風プロジェクト」によるビジュアルガイド『osaka field trip』が発行された。大阪大学コミュニケーションデザインセンター、大阪市、クリエイティブユニット「graf」と、中之島に縁の深い面々が参加する。

「graf」の1日、メンバー行きつけの店など、「osaka field trip」の巻頭に始まり、以前この月報でも紹介した八軒家浜奔着の「御舟かもめ」の話まで。ところどころ挟まる風景写真は、街路樹に彩られる今はなきタイビル、土佐堀川に映る夕陽…。中之島ネタの数々が冊子の背骨を貫いている(ように見える)のは、大阪におけるシマの注目度が上がっていることの表れか。定価3000円。問い合わせは大阪観光コンベンション協会まで。106-6282-5900 (松本創・本誌)



ぼむ企画が選ぶ 大阪の橋と建築

西梅田朝大学
期間/5月6日(木)~29日(土)
場所/ブリーゼブリーゼ1F
メディアコート
※ランニングのみ別途コース設定
申し込み方法/
event@breeze-breeze.jpまで、
必要事項を記入して申し込みを。
http://breeze-breeze.jp

(大迫力・本誌)

「朝の時間をデザインする」をコンセプトに、これまで多くのイベントを行ってきたブリーゼブリーゼが、「西梅田朝大学」を開校する。出勤前や休日の朝にいろいろなることを学んで身につけようというもので、ブリーゼブリーゼ内の各店を中心に個性的な講座が開講される。

中之島に本店がある「サトウ花店」による「オフィスを彩るフラワーアレンジメント講座」やイタリア料理「カンティーナ・ピアンヒアノ」の「イタリア人バリスタによる朝食講座」、また「ユナイテッドアローズ」による女性限定の「浴衣の着かた講座」など全6学部12講座を開催する。それぞれ開催日時・回数が異なるので、まずはホームページをチェックしてみよう。

開校します！ 西梅田朝大学

浜田省吾×田島照久による コラボレーション作品展開催決定!

この夏グランドオープンが予定される NAKANOSHIMA BANKS で開催される「浜田島II」は、ロックミュージシャンの浜田省吾と30年にわたりデザインと写真で関わり続けているグラフィックアーティストの田島照久が、写真、絵画、映像、立体といった、あらゆる表現手段を駆使してインスタレーションするものです。アナログ手法のモノクロームからデジタルアートの最先端、携帯端末から10メートル級の作品まで、かつてないスケールで展開されます。

日本初の河川敷の「にぎわい空間」
NAKANOSHIMA BANKS

NAKANOSHIMA
大阪・中之島 BANKS 2010年5月



THE HAMADA ISLAND II
The Exhibition of Shogo Hamada by Teruhisa Tajima

5.20 THU~5.30 SUN 会場 ■ NAKANOSHIMA BANKS http://www.nakanoshima-banks.com/
入場料 ■ 1,000円(※前売り券あり) 問い合わせ ■ 夢番地 106-6341-3525 http://www.yumebanchi.jp/
正午~午後9:00(土・日曜 午前11:00~) 浜田島オフィシャルホームページ ■ http://shogo.r-s.co.jp/hamadajima/

また来てしもたわ、 あー中之島。^{パッキー・ イノウエ}

其の八
俺は毎年ふぐ供養祭に参列して、
喪服でうろついている。

高台寺の隣というか上の方に霊山観音さんがある。その敷地の中に「ふぐ塚」というものがある。俺はここで毎年四月の初め頃に催されるふぐ供養祭に毎年欠かさず行っている。

京都のふぐ料理店やふぐを扱う魚屋さんや下関や東京や全国各地のふぐ組合の関係の方が多数参列される中、俺がなぜかいる。もちろんきちんと礼服を着て数珠を持って参加させていただいている。それは俺の好物がふぐだからであるとか、自前のでっさ包丁を持っているとか、家でよく焼ふぐをすとか、フグ料理屋さんを知り合いが多いからとかでふぐ供養に参列しているのではない。家内の親父さんがこのふぐ塚が建造される際にいろいろ尽力されたというところがあり、今俺が行かせてもらっている。

そしてこのふぐ供養祭に参列するたびに、このふぐ塚の、ふくよかなふぐの形をした大きな自然の石を親父さんが探してこられたという話をふぐ組合の長老の方々から毎年同じように聞く。初めてこの石が運ばれてきた時のことや、その時にこんなことがあったあんなことがあったという話を毎年聞くので、その話の内容は知っているし憶えているし俺が誰かにすることだって出来る。数年前までは、すでに聞いた話を聞くのはつまらなかつたけれど、最近は前に聞いた話を毎年同じ場所と同じ時期に同じような方から聞くことが実に心地よい。なぜだろう。

このふぐ供養祭は桜が咲いている頃に毎年行われるのだが、毎年決められているようにその日だけ強烈に寒い。天気がよくても雨が降っていてもその日だけ非常に寒い。そして供養祭が終わってから毎年懇親会がある。霊山観音さんの敷地内にある大きな広間で、俺は毎年同じ席に座って毎年同じ料理屋さんの上等な弁当をいただきながら毎年同じ熱燗を飲んでいる。その懇親会が終わるのは毎年4時ぐらい。屋下がりから熱燗を飲んだ後なので外の寒さが心地よい。霊山観音さんを出て高台寺周辺を観光客気分であらぶ。京都はエトランゼでいる方がよいとか以前俺は何かに書いたな、とか呟きながら、石塀小路に入りシェリー酒専門のバーに立ち寄り一杯だけ飲んでまたあらぶ。

しかし6時までが長い。6時にはなれば祇園の「サンボア」が開くし【安参】も開店する。なんで5時からちゃんやー！と毎年叫びたくなる。そしていつの間にか四条の花見小路。もう俺の足は先斗町の【ますだ】に向いている。そうさ、【ますだ】は5時からなんだ。上木屋町の【やました】は4時からなんだよー。

俺は毎年同じ催しに行き、同じ話を聞き、同じ弁当を食い同じ酔い方をして同じようにあらぶして同じような夜になる。そしていつもと同じ朝を迎えている。あー、というしかない。

ぱっきーいのうえ 京都・錦市場の漬物店【錦・高倉屋】店主にして日本初の酒場ライター。近著『京都 店 特撰』が絶賛発売中。

Will you join us?

中之島に「入会」しませんか？

取材・文／石原 卓（本誌）

伝

統の大阪倶楽部4階ホールにジャズのビートが響き渡る。昨年

からほぼ毎月のペースで行われている「JAZZのタベ」の仕掛人であり、世話人代表を務める高木章博さんは、倶楽部入社20年以上の大先輩である。「昔から遊ぶことが大好きだったからね。演奏してくれるメンバーも昔からの知り合いなんだ」と、アロージャズオーケストラでも活躍している関西ジャズの大御所たちと楽しそうに談笑している。

関西最大の紳士社交倶楽部である大阪倶楽部も、時代に即した変化が今求められている。会員（社員）数の確保やサービス向上など、伝統と革新の間でさまざまな問題にぶちあたっている。そんな中で遊び心を忘れず、いつも面白いことを探しているという高木さんは、現役時代はバリバリの広告マンだった。

シマの粹人編

高木少年のこと。



その時の幅広い人脈やノウハウが、今も大阪倶楽部に新風を流し込み続けている。

昨年からの新たな試みとして開催されているこの「JAZZのタベ」は、厳

格な会員限定の枠を外し、家族や友人などの非会員にも大きく門戸を開放したイベントだ。会員（社員）の紹介があればビジターだけの参加もOK。レトロなホールの雰囲気と共にジャズを楽しみながら人々が老若男女問わず集まって来るのが特徴だ。

「ピ アノの多田さんが「失敗したらごめんなさいね、でもそういうのもジャズなんです」と笑いを誘うM Cで、次々とジャズの名曲をトリオで奏でていく。参加者は軽食やビールなどを気軽につまみながら、時にはピアノの上にリクエスト曲のメモを置きに行ったりと、どこまでも自由で楽しい。演奏が終盤にさしかかった時、高木さんは立ち上がってスイングのリズムをとりながら、満面の笑みでメンバーを見つめる。あえてお歳は公開しないが、この時、高木さんはジャズ好きの高木少年になっていた。すべてのブッキングからリハーサル立ち会いまでをこなす高木さん。「難しいことは好きじゃないんだ。楽しいことが昔から好きだったからね」と、またまた少年になって笑ってくれた。



大阪倶楽部VIPも少年に戻ってジャズ鑑賞の図。

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

京阪電車関連：京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/テリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋

書店：ブックファースト梅田店/旭屋書店 本店/旭屋書店 梅田地下街店/旭屋書店 堂島地下街店/ジュンク堂書店 大阪本店/ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店/ブックファースト 淀屋橋店/文芸堂書店淀屋橋店/福家書店 淀屋橋店/天神書局 大江橋店/紀伊國屋書店 本町店/ジュンク堂書店天満橋店/紀伊國屋書店 京橋店/隆祥館書店/なんば書店カルチャーコーナー

公共施設・大学関連施設ほか：大阪市中心公会堂/府立中之島図書館/大阪市役所市民情報プラザ/大阪市立中央図書館/大阪歴史博物館/大坂城天守閣/大阪狭山市立図書館/奈良県立図書情報館/大阪国際会議場/市立住まい情報センター/大阪商工会議所/大阪市社会福祉研修・情報センター/大阪企業家ミュージアム/味の素 食のライブラリー/朝日カルチャーセンター/大阪大学中之島センター/大阪大学本部/大阪大学21世紀懐徳堂/摂南大学地域連携センター/慶應大阪リバーサイドキャンパス/追手門学院 大阪城スクエア/追手門学院 大手前センター/関西学院大学大阪梅田キャンパス/専門学校中の島美術学院/大阪工業技術専門学校/ろうきんギャラリー心斎橋/大阪倶楽部/中央電気倶楽部/芝川ビル/N4タワーマンションパビリオン/ホテルNCB / ABC朝日放送/大阪フィルハーモニー会館

店舗・医院など：江戸前鰻料理 志津可/ラ・クッカーニャ/アリアスカ マーブルトレ/ MANGUEIRA / Girond's JR / じろう亭/ミニロー/黒門さかえ/花かつ/ティーハウスムジカ/MJB珈琲/平岡珈琲店/喫茶SAWA/アンドール本町本店/あじさい/ Calo Bookshop and café / EXPO CAFE / BAR THE TIME 天神/タバーン・シンブソン/パストラーレ/LES LESTON / 大西洋服店/上町貸自転車/ザ・メロディ/セブンイレブン大阪証券取引所/吉田理容所/たまがわ鍼灸整骨院/宮崎歯科/心斎橋山田兄弟歯科/東郷歯科医院/

バックナンバーお譲りします。

2008年8月に創刊した『月刊島民』。大きな支持をいただいていることは、「バックナンバーありませんか？」と月刊島民プレスを訪ねてくる方々の多さからも伝わってきます。さて、そのバックナンバーにつきまして、1冊につき100円をいただくこととなりました。号を重ねていくうちに保管用のスペースが必要となり、そのための維持管理費を負担していただく形です。何卒、ご理解とご協力のほど、よろしく申し上げます。お問い合わせは下記の電話番号まで。

次号予告 平城遷都1300年 奈良から見た大阪

隣の隣の街・奈良では平城京遷都1300年祭が始まった。
が、大阪にも都はあった。飛鳥、藤原、平城京に次ぐ難波京だ。
古代のミヤコを補助線にして、奈良から見た大阪を考えてみる。

●『月刊島民』vol.23は2010年6月1日発行です！

編集・発行人/江 弘毅 (編集集団140B)

編集・発行/月刊島民プレス

若狭健作 網本武雄 (株式会社 地域環境計画研究所)

松本 創 大迫 力 (編集集団140B)

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階

Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341

制作進行/堀西 賢 (ALEGRESOL)

デザイン/山崎慎太郎

表紙イラスト/奈路道程

印刷/佐川印刷株式会社

水都と古都が、
ひとつなぎになりました。

京阪電車中之島駅
楠葉けい子（大学生）



京阪電車お客さまセンター ☎06-6945-4560 ※おかけ間違えのないようにお願いします。

[平日] 9時～19時 [土休日] 9時～17時 ※12月30日～翌年1月3日は休業

おけいはん 検索
www.okeihan.net